

日本老年看護学会 研究活動推進委員会  
Web 研修セミナー報告

1. セミナー概要

セミナー開催日：2023年10月21日(土) 13時半～16時半

テーマ：『現場発信型研究への第一歩』～日頃の疑問や実践を形に～

講師：得居 みのり氏（大阪信愛学院大学 看護学部 准教授）

- ・参加人数：講義参加時 44名、グループワーク時 37名
- ・参加者の8割が病院所属で、臨床所属の参加者が多かった。
- ・講演、グループディスカッションともに満足度は8～9割が満足と回答していた。
- ・今後の要望として、文献クリティーク、研究倫理、研究のコンサルテーションがあげられた。またテーマを絞って、今回のようなディスカッション、交流の場の機会セッティングの要望もあげられた

2. アンケート結果

アンケート回答数：33名（回収率：89.2%）

I. あなたご自身についてお尋ねします

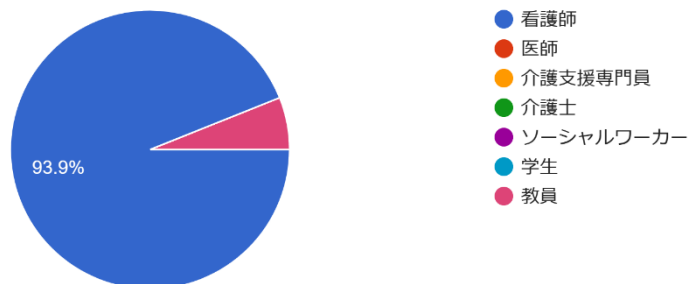
1. 現在のご所属を下記からお選びください

33件の回答



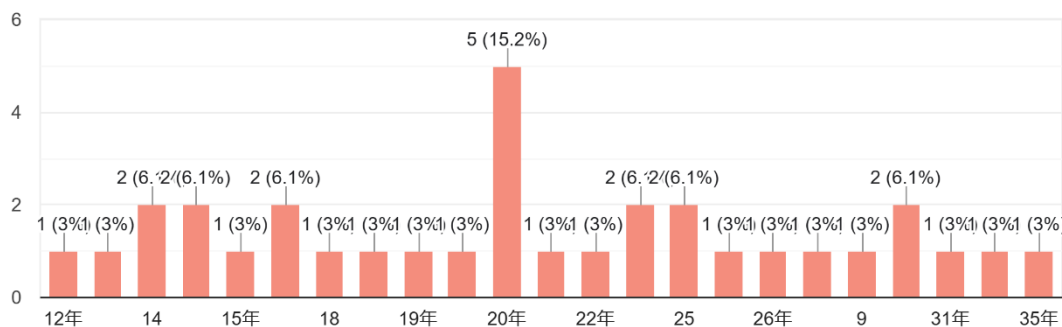
2. 職種を下記からお選びください

33件の回答



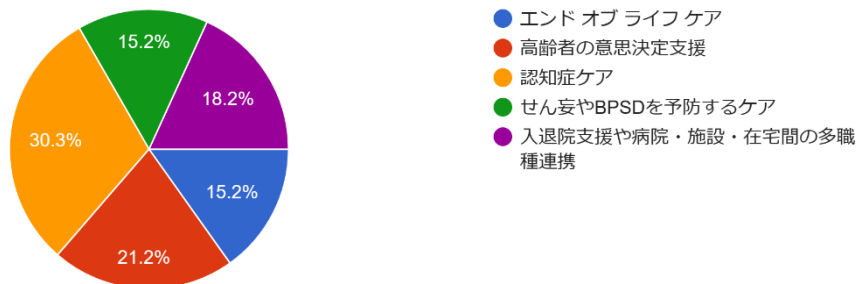
3. 2で回答いただいた職種での経験年数をご記入ください（例：10年）

33件の回答



4. 本日ディスカッションに参加されたグループを下記からお選びください

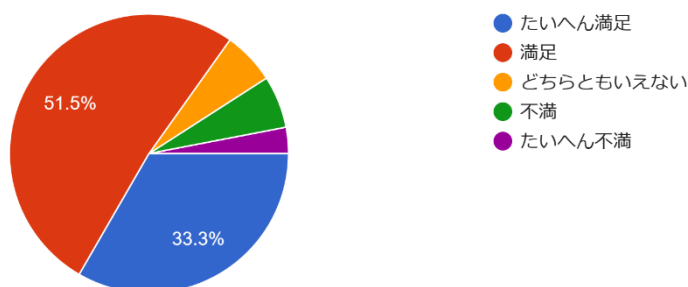
33件の回答



## II. 以下の項目について、お答えください

5. 【講演】『研究疑問から研究計画書立案までの...セスと遂行のポイント』の満足度を教えてください

33件の回答



6. 【講演】『研究疑問から計画書立案までのプロセスと遂行のポイント』について、ご意見や感想がありましたら、お書きください（n=17）

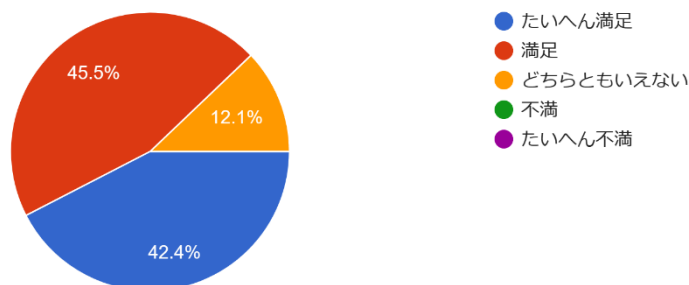
- ・研究のプロセスや大事なことが簡潔にまとめられていてわかりやすかったです。
- ・わかりやすかったです。
- ・初心者にもわかるような説明で大変わかりやすいご講義でした。
- ・臨床での疑問、もやっとしたことをどのように引き出すのか、臨床での疑問（もやっとレベル）からリサーチ

クエッションまで変換させていくプロセスをもう少し詳しく知りたかったです。PICO、PECO では整理できない疑問もあるのかなど。実践報告を研究的な形で示す方策も知れたらよかったです。

- ・学び直しの機会になり、ありがたいです。
  - ・大変わかりやすい内容でした。
  - ・丁寧に説明をしてくださり、研究プロセスの復習になった。
  - ・難しく思っていた取り掛かり方や方法が見えてきました
  - ・とてもわかりやすかったです。分析方法をもう少し知りたかったです。
  - ・得居先生貴重な講義ありがとうございました。具体的に明日から取り組むことが明確になったように感じました。予定より講義の時間が長かったのですが内容は得居先生の実践されてきたことが含まれており分かりやすかったです。1時間 30 程度の講義でちょうど良かったように思います。
  - ・プロセスが分かりやすく、勉強になりました。時間がかなりオーバーしてしまったのが残念でした…。
- 
- ・一つずつ丁寧にお話いただき理解につながりました。もともと本研修会で学びたいと思っていた疑問が解消されました。少しずつ、活動報告や研究を進められるように、リソースや仲間を見つけていきたいと思えます。貴重なご講義をありがとうございました。
  - ・決められた時間内で講義を行なうのも講師の力量と考えます。時間が大幅に超えて集中力も低下し、とても残念に感じました。タイムマネジメントはとても重要だと考えます。
  - ・実践、経験に裏付けされた説明でとてもわかりやすかった。
  - ・一般的な研究プロセスについての講演だったが、日々の実践を具体的にどうすれば研究の形に持っていけるか、現場レベルでの話が聞きたかった。
  - ・研究計画書を記載する段階で、研究を実践する具体的な方法や進め方、協力者への具体的な内容まで考えることが難しく、研究方法を予測しながら立案していくポイントを機会があれば教えていただきたいです。
  - ・研究疑問で用いられる PICO についてわかりやすく説明をされ理解できました。例を用いて説明されていたので、とても分かりやすかったです

#### 7. グループディスカッションの満足度を教えてください

33 件の回答



#### 8. グループディスカッションについて、ご意見やご感想がありましたら、お書きください (n=20)

- ・意見をいやすかったです。他の方の意見も参考になりました。
- ・あっという間でした。時間があればもっと詳しくお話聞きたかったです。
- ・共通な疑問、悩みを共有できて励みになりました。

- ・病院で働く方も苦難していることが分かり、心強かったです。
- ・研究のプロセスを学ぶことができてよかった
- ・特に自分の研究テーマがあるという状況ではなかったため、グループワークで何を話せばよいか不安でしたが、とても話し合いしやすい雰囲気でした。
- ・さまざまな現場の方と意見共有ができよかった。もう少し時間があればよかったように思う。
- ・一人一人の発表形式だったので、ディスカッションができませんでした
- ・様々な地域や施設からの参加があるが思いや課題は共通点が多いと感じ、有意義な意見がもらえました。ありがたかったです。
- ・淵田先生の進め方がとてもよかったです。時間があればさらに文献検討、その先に進められたのにとおもいますが、とても満足しました。今までいろんな看護研究の研修会に参加しましたが、今回の研修が一番臨床に活かせる内容でした。また機会がありましたら参加したいです。ありがとうございました。
- ・グループディスカッションではファシリテーターの先生が主にお話されていたので、もう少しメンバー間でのディスカッションができればよかったかなと思います。
- ・色々な方の意見が聞けて面白かったです。
- ・他のご所属の方のお話を聞くことができ、また坂井先生がその内容をリサーチクエストとしての見方をご提示くださいましたので、改めて講義の理解が深まりました。ありがとうございました。
- ・他施設の方と語れる機会はとても良い時間でした。答えにはたどり付けませんでしたが、会話や共有の場面でヒントをいただけたと思います。
- ・考えていたテーマと異なったが、様々な現場での現状を聴かせていただけた事。自身の疑問をファシリテーターの先生に、コンパクトに要約して頂いたことで整理できた。
- ・淵田先生のファシリに沢山助けていただきました。ありがとうございました。
- ・講義が長すぎた。グループディスカッションメインにしてそれから全体討議のほうが、参加の目的が達成できたのではないかなと思う。
- ・時間が少なすぎるように感じました。
- ・淵田先生にディスカッションの進行と書記もして頂きました。ディスカッションの内容を可視化でき、話し合いの経過が良くわかりました。もう少しディスカッションを続けたかったです
- ・日々の看護から、これは研究に入るのかな？と思いながらディスカッションに参加をしました。他の病院所属の方からの意見や話を聞いて参考にもなった。

### **Ⅲ. 以下の項目について、ご記載ください**

9. 今後、委員会の研修で扱ってほしいテーマがありましたら、お書きください（n=18）

- ・認知症の方の事例研究の倫理的対応
- ・研究についての研修会を今後もお願いしたいです。抄録の書き方なども。
- ・研究指導について
- ・意思決定支援の具体的な方法論について
- ・特になし
- ・地域で活躍している看護師に関する研修
- ・研究指導の実際、ポイントについて
- ・認知症高齢者の意思決定支援、身体拘束解除に向けた取り組み
- ・研究方法論についてより学びたいと思っていたので、来年の学会の交流会にはぜひ参加させていただき

たいと思います。また、質疑応答でも話題になっていましたが、同意取得の際の倫理的配慮についてなど、研究倫理についてもより詳しく学べる機会がありましたらありがたいです。

- ・家族看護
- ・具体的にリサーチクエッションから、研究デザインを作成するまで。文献を読み解く方法（クリーティーク）
- ・コンサルテーションについて
- ・現場で研究を行っている大学教員の方のサポートが本当にありがたいです。私は大学病院勤務のため、サポートが得られやすいですが他の方は簡単にはいかないのだろうな、と考えさせられました。現場の看護師は通常はなかなか大学の先生と出会うこともないので、研究サポートを受けたい現場看護師と、フィールドを求めている大学教員のマッチングの場があったら面白いのでは、と思いました。今はオンラインも発展していて、地域が違っていても話しやすいので、学会としては現場実践者のサポートを続けて頂きたいです。
- ・エンド・オブ・ライフケア学会の研修参加後、お誘いが来ました。私は日本緩和医療学会のELNEC-Jの指導者ですが、私事情で活動ができていません。ようやくこうやって研修会等に参加できるようになりました。がんばりではなく、老化・死は誰もが体験することであり、エンド・オブ・ライフについてもっと推進していけるテーマがあれば参加したいです。
- ・高齢者施設の利用者に関わる多職種が、実際にどのように連携を進めていき、どのような支援をしていくべきか。また利用者や家族（代理意思決定の方）が何を望んでいるのかについて、連携の中でどのように引き出していくのか（本音）、より具体的な支援方法、解決案等についてディスカッションしたい。
- ・今回のサブテーマ「日頃の疑問や実践を形に」の部分をクリアにできるかどうかで、業務改善で終わるのか、看護研究になるのかがわかるように感じました。今日の内容を例えばグループ固定で何回かシリーズで研究企画書を作成するところまで、疑似OJTのような感じでやってもらえたらなと思いました。
- ・研究の進め方について（文献検索の検索のキーワードとなる言葉の選定についてや実際の方法、など）各項目について。看護学生への認知症高齢者の理解、ケアについて講義や実習での教授方法について。
- ・倫理について学びたい

#### 10. 本企画についてのご意見やご感想をご自由にお書きください（n=22）

- ・いろんな方と意見交換ができ有意義だった
- ・具体的な研究上の問題の解決の糸口が見つけられてよかったです。
- ・とても勉強になりました。貴重なテーマを企画頂き、ありがとうございました。
- ・もう少し時間が長くてよかったです。
- ・6G（？）で活用されていたワークシートのようなものを共有していただけますとありがたく存じます。
- ・続編を期待します。
- ・ディスカッションがよかったです
- ・なかなか現場でもややもやとしても、研究について立ち止まって考える機会がなかったので、良かったです。グループディスカッションも楽しかったです。
- ・魅力あるご企画をありがとうございます。
- ・本日学んだ内容を活かして、現場発信の研究に繋がれたらと思います。ありがとうございました。
- ・企画、運営ありがとうございました。研究について改めて考える機会になりました

- ・本当は勤務だったが替わってもらって参加できました。無駄にしないように、思いが強いうちに具体的に動き始めようと思います。
  - ・とてもよかったです。
  - ・今回の研修を受けて、研究における悩みも高齢者・認知症患者に対する思いも、皆さん同じように持っているのだと改めて実感させられました。このような研修自体が研究へのモチベーションを高めるのだと思います。この度は研修の開催をありがとうございました。関係者の皆様もご自愛ください。
  - ・貴重な機会をいただきありがとうございました。
  - ・まさに研究計画書を作成中だったので、参加を申し込みました。研究の土壌がない病院や施設が多くあります。私の施設も外部講師に頼っている状況です。大学との共同も可能でしょうが、自施設内での研究の相談や推進ができる教育担当者の育成も必要と考えました。医師や臨床心理士など修士・博士課程を学んだ人にスーパーバイズを依頼することも研究を考える上で必要と考えました。
- ・大変有意義な時間を過ごせました。運営、講演してくださった先生方、ブレイクアウトルームでシェアして下さった方々、ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。一つのグループで一つのことをやり遂げる（所まではいきませんでした）時間が楽しく感じました。ありがとうございました。
  - ・あらかじめテーマを絞って研究の研修会を開いたらどうでしょうか？例えば、ACP、退院支援、認知症ケアなど。興味関心のあるテーマで地域、所属などをこえてディスカッションしたら面白いと思う。今後の研究へ向け、出会い、交流の機会になる。
  - ・自分のやりたいこと、研究したいことは何となく決まっています。一般的には常識だと認識されていることが本当にそれでいいのか、など別の視点で考えてみたいと思っています。それが研究として妥当なのかどうかを相談したいスーパーバイザーがいません。そのようなアドバイス、皆さんが工夫していることが話し合ったらよかったです。研究の方法論というより大学病院やそのようなコネクションがない田舎の市中病院のような環境でも研究を行うにはどうしたらいいのか、大学や学会が取り組んでいる情報や支援がいただけるとモチベーションにもつながるのかなあと思いました。
- 今回の講演のなかにも臨床には研究材料がいっぱいあるとのことでしたので、研究を専門にやっている先生方と研究材料にも気づかない臨床の看護師とをつなぐことも課題ではないかと思いました。現場には大学を出ていない専門学校卒の看護師もまだまだ多いです。しかしそのような看護師は経験値が豊富です。経験値と研究を結びつけエビデンスとするにはそのような看護師を巻き込み、研究に参加してもらう必要があると考えます。
- ・得居先生、本日は御講義、ありがとうございました。四天王寺大学の杉本です。只今、研究計画書を作成しております。文献検索では、わかっていること、わからないこと、また海外ではどうなっているのか、明確にし、視野を広げて研究内容を再検索し、検討していきたいと思いました。また機会があれば先生に研究の進め方や、実際の内容など具体的に御講義していただきたいです。今後どうぞよろしく願い申し上げます。
  - ・日々もやもやしたケアに関する疑問が、現場発信から看護研究につながることが解った。自部署で、発信しにくいと感じていたが、今後は仲間づくりをしていき看護研究をして行きたいと思います。ありがとうございました。